

第4章 問題・課題の整理

道路整備などによる交通手段の発達で、生活圏の広域化傾向が本市にも現れており、今後、熊本・宇土商圏の影響、通勤圏の拡大など様々な影響が予想されます。

こうした動向のなかで、今後は、本市が単に他市町の生活圏に包み込まれていく方向ではなく、ある分野では他市町の都市機能に依存しながら、ある分野では本市の都市機能を他地域の住民に享受させていくという形で、都市の自主性・独立性を維持しながら交流型の都市形成を図る必要があります。そのためには、生活圏の広域化・重層化に対応した特色あるまちづくりが重要であり、通勤の相互流動の高まりを踏まえた定住環境整備と生活面における、安全・快適・利便・教育などの住民の基本ニーズを満たす生活環境整備が大きな課題となっています。

本章においては、前章（都市計画基礎調査を活用した各種エリア別の統計的分析）を踏まえつつ、それぞれの地域の現状も勘案しながら、都市計画としての問題や課題を整理します。

1 人口の減少と少子高齢化

【人口の減少と高齢化の進行に対応した都市整備】

近年、本市の人口は停滞傾向が続いています。

昭和30年に75,552人（旧5町の合計）であった本市の人口は、昭和50年の61,448まで減少を続けました。実にこの20年間で小川町の総人口に匹敵する14,104人が減少しています。

昭和55年以降総人口は増加に転じ、平成12年国勢調査時には63,968人を数えていますが、その内訳を町別にみると、増加を続けているのは松橋町だけという結果になっています。

また、年齢構成も若年層（15歳～24歳）の流出が続き高齢化が急速に進んでいます。わが国全体の社会状況・構造からみて少子高齢化の傾向そのものを止めることは困難ですが、人口の減少及び高齢化の進行を穏やかにすることが重要であり、若年層の流出防止、新規流入・定住化の促進が都市づくりのうえで大きな課題となっています。

さらに高齢化の進行を踏まえ、高齢者を含めた全住民の定住のために次のような「生活の質の向上」を目指す必要があります。

【効率的で魅力あるコンパクトな市街地の形成】

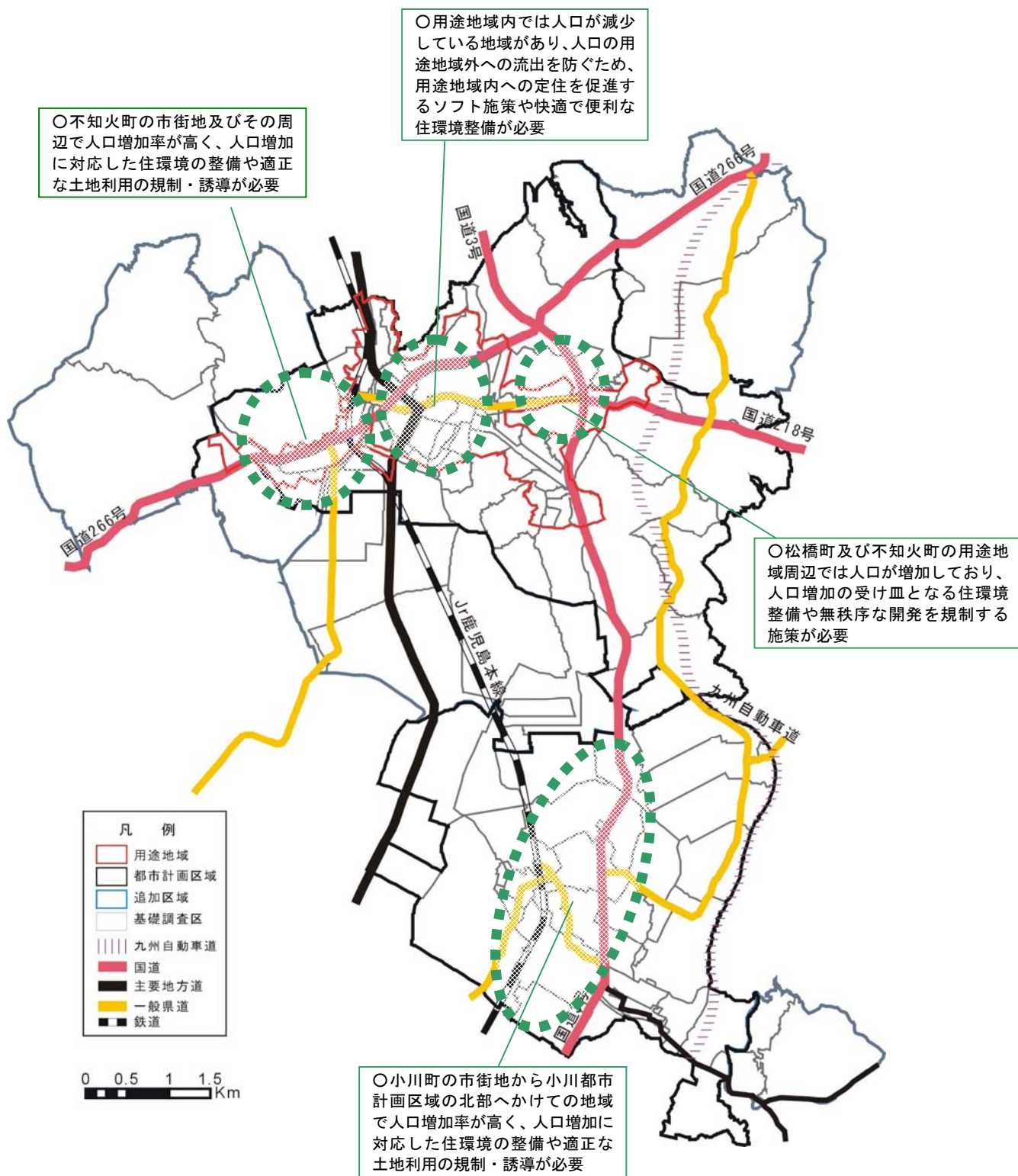
人口の減少傾向が避けられないことから、財政的な視点も踏まえ、効率的な都市整備を推進することが必要になります。また、若年層の流出防止・定住化への対策として、都市的利便性・快適性・魅力の向上のための集中的な投資・整備も必要です。

このため、都市的市街地として整備・誘導すべき一定の範囲を、集中的・効率的に整備することで、都市的魅力が集積している地区を創出することが必要です。

人口動向から見た都市計画の課題

◎人口の減少と高齢化の進行に対応した都市整備

◎効率的で魅力あるコンパクトな市街地の形成



2 都市構造、都市整備

【未成熟な都市核～拠点地域の整備】

本市における土地利用は、松橋・不知火地区の中心部と小川町の中心部の市街地と、その周辺における農業地域に大きく分けられます。

市街地は東西に横断する国道266号、南北に貫通するJR鹿児島本線、主要地方道八代鏡宇土線や国道3号の沿線を中心に形成されていますが、区画整理などの都市計画事業の遅れにより、都市機能の効率的配置や快適な住環境の整備が課題となっています。

また、地域の特性を活かしたまちづくりに取り組むことが、本市の活性化につながる重要な課題であり、市街地の整備改善と商業などの活性化に向けた全体的な再開発に取り組み、市民のニーズを的確にとらえて関係機関と連携を図りながら、具体的な取り組みに着手していくことが必要です。

古くから交通の結節点機能を有していた旧松橋町・不知火町の中心部は、旧国道3号、国道218号、国道266号を骨格として松橋駅・松橋町役場・不知火町役場を中心とした市街地が形成されてきました。近年整備された国道266号沿線に相次いでロードサイド型の店舗の立地が進みましたが、かつて旧国道3号と駅前から県道松橋停車場線の沿道に形成されていた商店街では閉店が相次ぎ、市街地の構造は大きく変化しました。最近では区画整理事業と併せて整備された都市計画道路港町・上原線の沿道での商業施設立地が目を引くようになっています。

旧小川町の中心部は国道3号を骨格として、旧小川町役場・小川駅を中心とした市街地が形成されていました。駅前と国道3号から東に分岐する主要地方道小川嘉島線沿道には商店街も形成されていましたが、低迷を続けています。商業の中心は国道3号沿いの大型ショッピングセンター周辺に移って、松橋・不知火地区と同様に市街地の構造は大きく変化しています。

このように、市街地の構造が大きく変わる中で地域の顔となる中心市街地の整備が不十分であると都市構造のあいまいさをもたらし、利便性が悪くまとまりの悪い都市形成を招く恐れがあります。

特に、JR各駅は本市の玄関口でもあり、さまざまな面で人・物・情報の集発散拠点となることから、地域や町の顔としての機能や人々が交流できる機能など新たな機能追加が求められています。

【中心市街地の空洞化の防止・中心性の再生】

都市的魅力喪失の原因であり、結果でもある中心市街地からの人口の流出は本市においても大きな問題です。空洞化を防止し、都市の中心性を再生することは重要な課題です。

このためには、商業の活性化だけでなく、中心地での居住性の向上や文化・教育面での魅力向上等、多面的な取り組みが必要であり、そのためには住民の意見を取り込んだまちの再生が重要になります。

【周辺集落の環境整備及び農地の保全・有効活用】

既存集落では、中心部の市街地に比べ、狭隘な道路状況、下水・公園の整備等基盤整備が相対的に遅れている状況です。中心部の都市整備とは異なる構想や目的、スポット的な整備により、農業や農村の持つ魅力を活かしながら、同時に定住のための生活環境整備を進めることが重要です。

また、農地の今後の活用については「農地としての保全、有効活用」が望まれており、ゆとりある田園景観の保全の意味からも農業・農村を存続させることが必要です。このためには、後継者の問題等に対応する必要がある、「農地有効活用のための組織化事業」等の支援施策を推進する必要があります。

【安全・安心な生活を支える基盤施設の整備】

都市部は、商業を始めとした都市的サービスや就業機会の提供など地域発展に大きな役割を果たすとともに、ゆとりと潤いにある生活圏づくりを進める上で重要な役割を担うことから、一層の都市機能の集積と良好な都市空間の形成が求められています。

快適で利便性が高く、健康的な市民生活をおくるためには立ち遅れている都市基盤施設（生活道路や公園、上下水道等）の整備を一層促進する必要がある、生活環境・基盤の整備拡充を進める必要があります。

市域と熊本、八代都市圏とを結ぶ交通ネットワークの整備の遅れ、J R鹿児島本線による市街地の分断などで市街地と都市圏を結ぶ主要道路は慢性的な交通渋滞を引き起こしています。その状況は、国道3号や県道など南北方向の広域幹線間を連絡する東西方向の市域内幹線が不足あるいは不十分であるため、既存路線がバイパスとして機能していないことや、網としてのネットワークが形成されていないことに起因すると言えます。

また、市民の生活利便性の向上の観点からみると、生活道路の整備も遅れており、防災面や生活環境の面からも、安全で快適な道路整備が望まれます。

また、豊かで潤いのある市民生活を創出する公園・緑地に対する市民ニーズに対応するために地域の自然や歴史を活かした整備を進める必要があります。

一方、公共下水道は公共用水域の水質保全はもとより、市民生活や公衆衛生の向上を図るうえで重要であり更なる整備を進める必要があります。

また、生活様式の多様化に伴い、生活用水などの水需要は、年々増加傾向にあります。このため、水需要の増加に適切に対応できるように、水受給の安定を図り、安全で安心して利用できる生活用水の確保が求められています。

【住宅地需要及び産業機能拡大への対応】

世帯数は昭和55年以降、増加しており平成12年までの20年間で3,614世帯、増加率は22.1%となっています。町別にみると三角町だけが159世帯、4.3%減少しており、他の4町は増加しています。特に松橋町は1,157世帯、16.4%と著しい増加をみせており、核家族化の進行などで住宅地需要の増加が予想されます。

また、宇城市の活力向上や雇用の創出により、市民生活の安定をめざすためその受け皿となる用地の確保も、求められています。

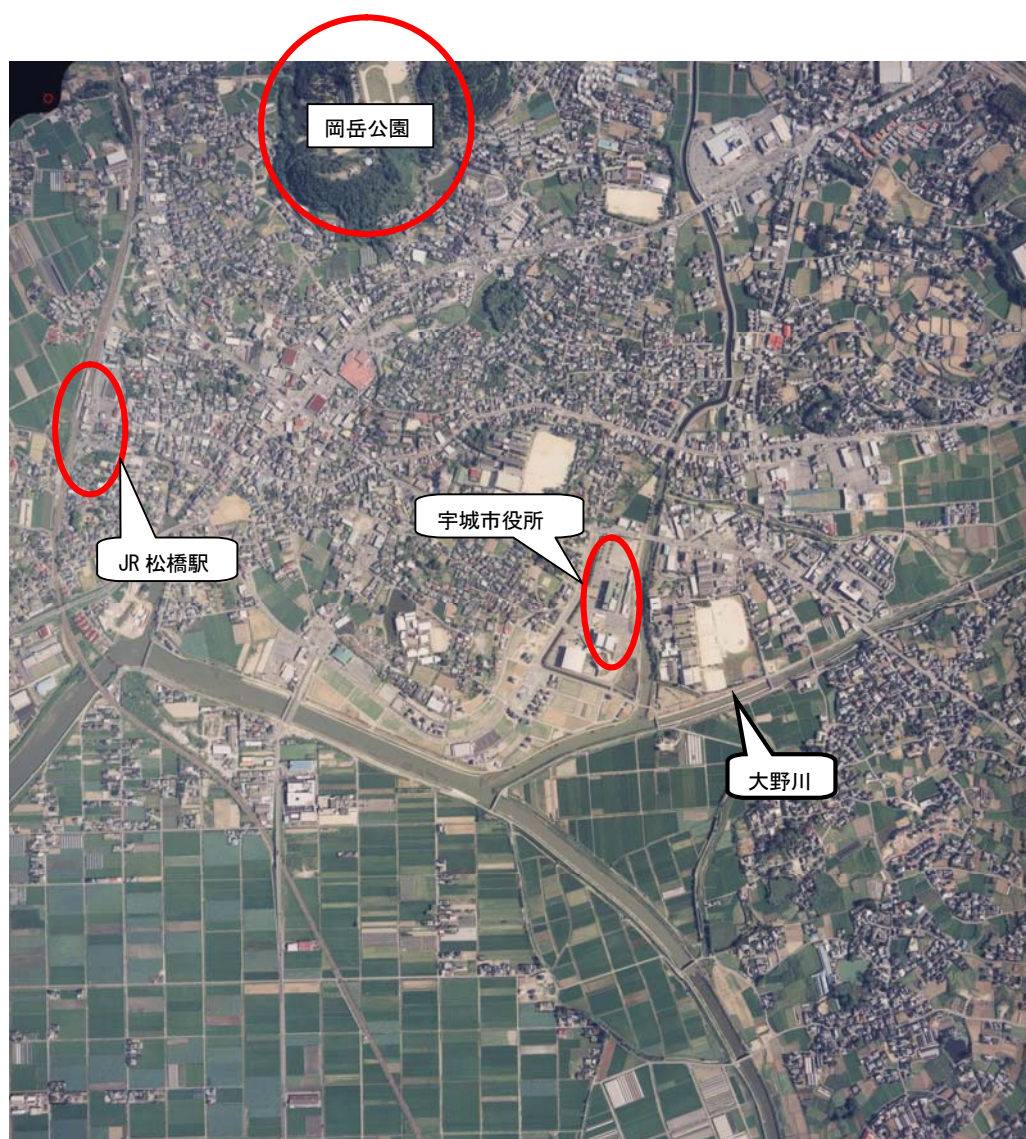
【都市計画施策の母体となる都市計画区域の見直し】

都市計画施策とは、都市計画法に基づき、都市計画区域内において施行する行政施策ですが、現在宇城市においては、旧町時の2つの都市計画区域（松橋不知火都市計画区域及び小川都市計画区域）が存在しており、市全体の発展基盤を形成する「一体性の確保」のためにその見直しを行うことが必要です。

今回の都市計画マスタープランでは、5町が平成17年に合併し、一体的なまちづくりを進めることが急務となっていること、また、人口減少、少子高齢化が今後も進行すると予想される中で、宇城市として公正で円滑な都市計画施策を施行していくために、都市計画法に定められた「一体の都市として総合的に整備、開発及び保全」を図るべき区域として、土地利用動向や各種事業動向も勘案しつつ、都市計画区域の見直しを進めます。

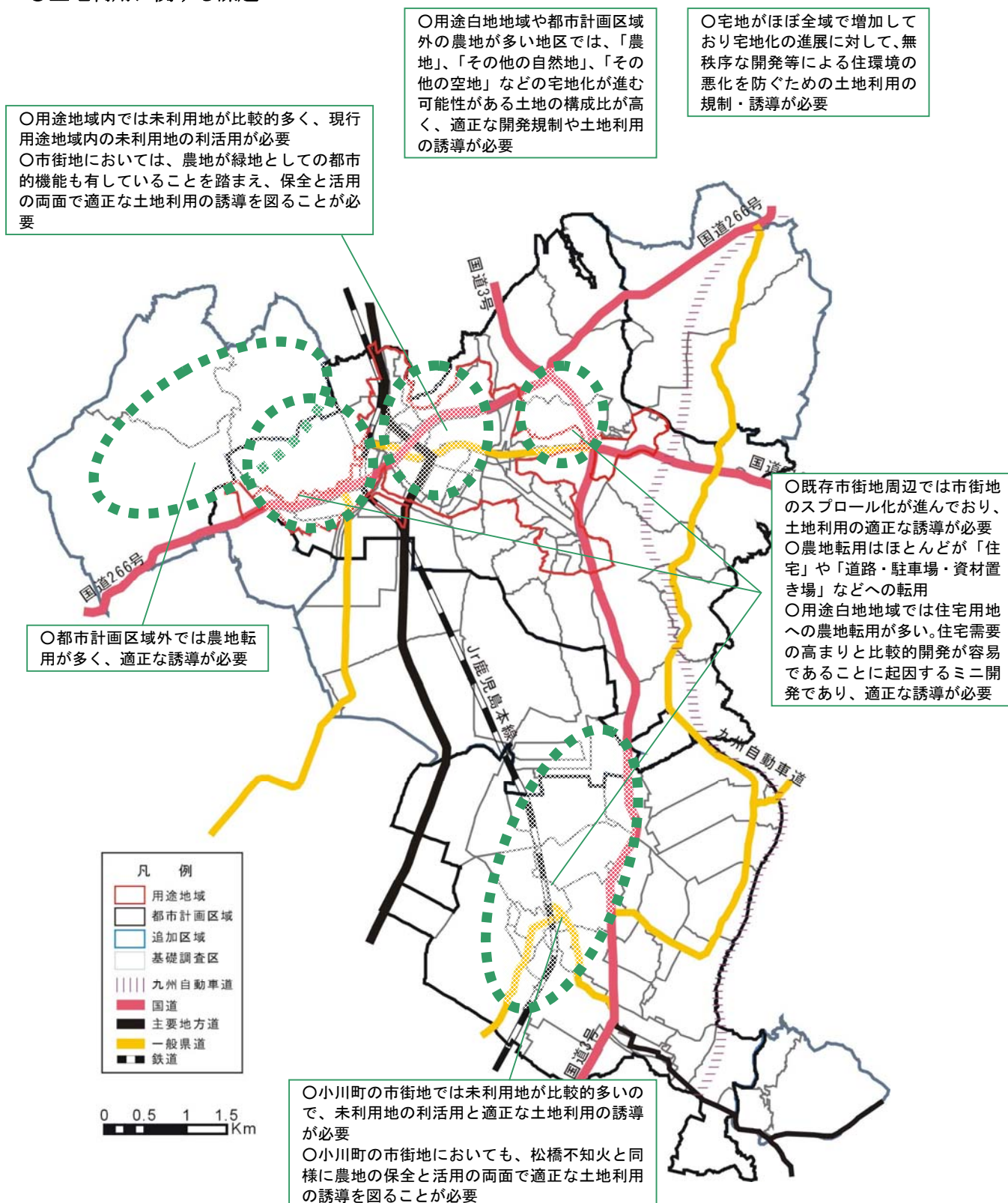
都市構造、都市整備に関わる課題

- ◎未成熟な都市核～拠点地域の整備
- ◎中心市街地の空洞化の防止・中心性の再生
- ◎周辺集落の環境整備及び農地の保全・有効活用
- ◎安全・安心な生活を支える基盤施設の整備
- ◎住宅地需要及び産業機能拡大への対応
- ◎都市計画施策の母体となる都市計画区域の見直し



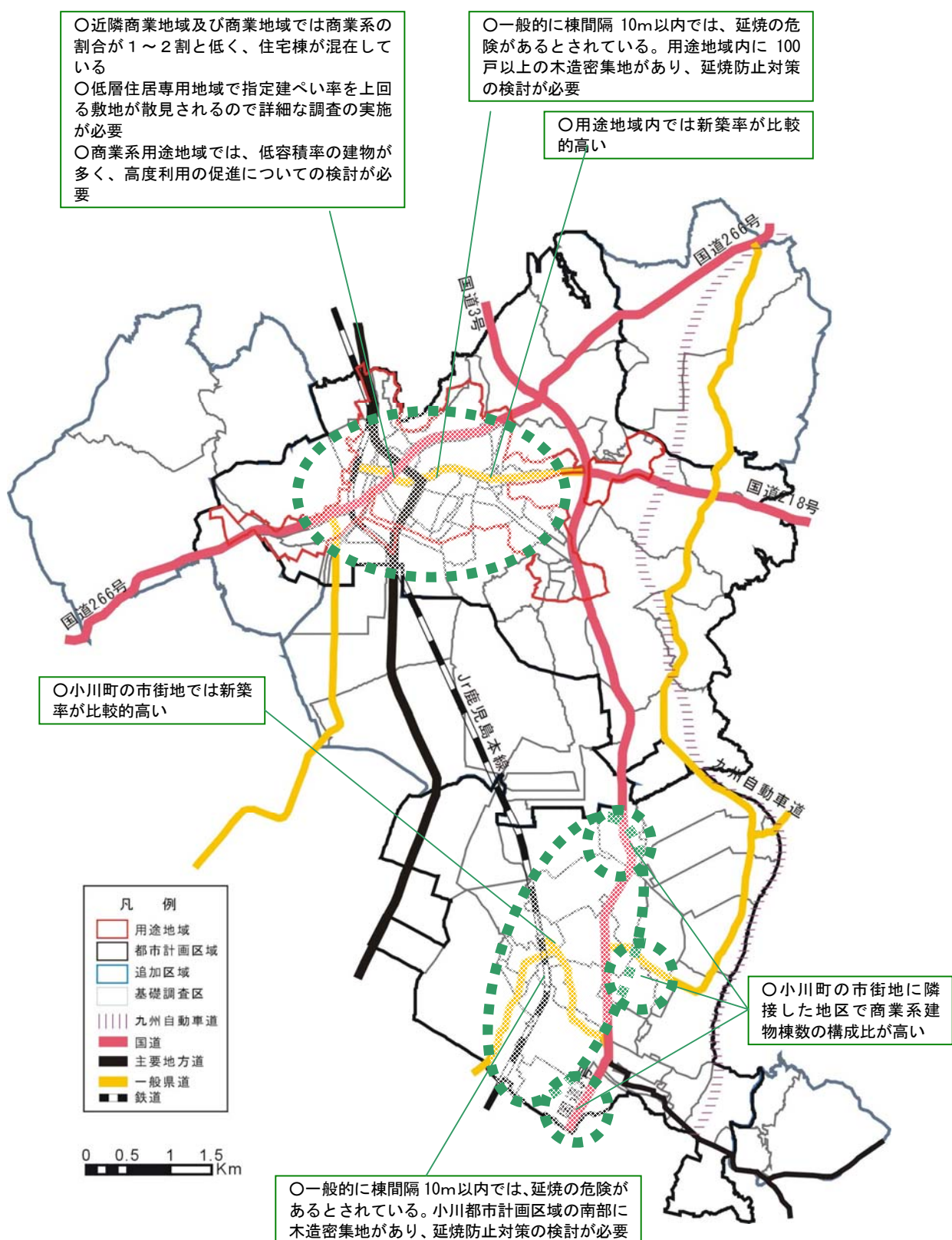
松橋・不知火 上空写真

●土地利用に関する課題



注 農地転用率＝農地転用面積（H12～H17の6年間）／農地面積

●建物の規制・誘導に関する課題

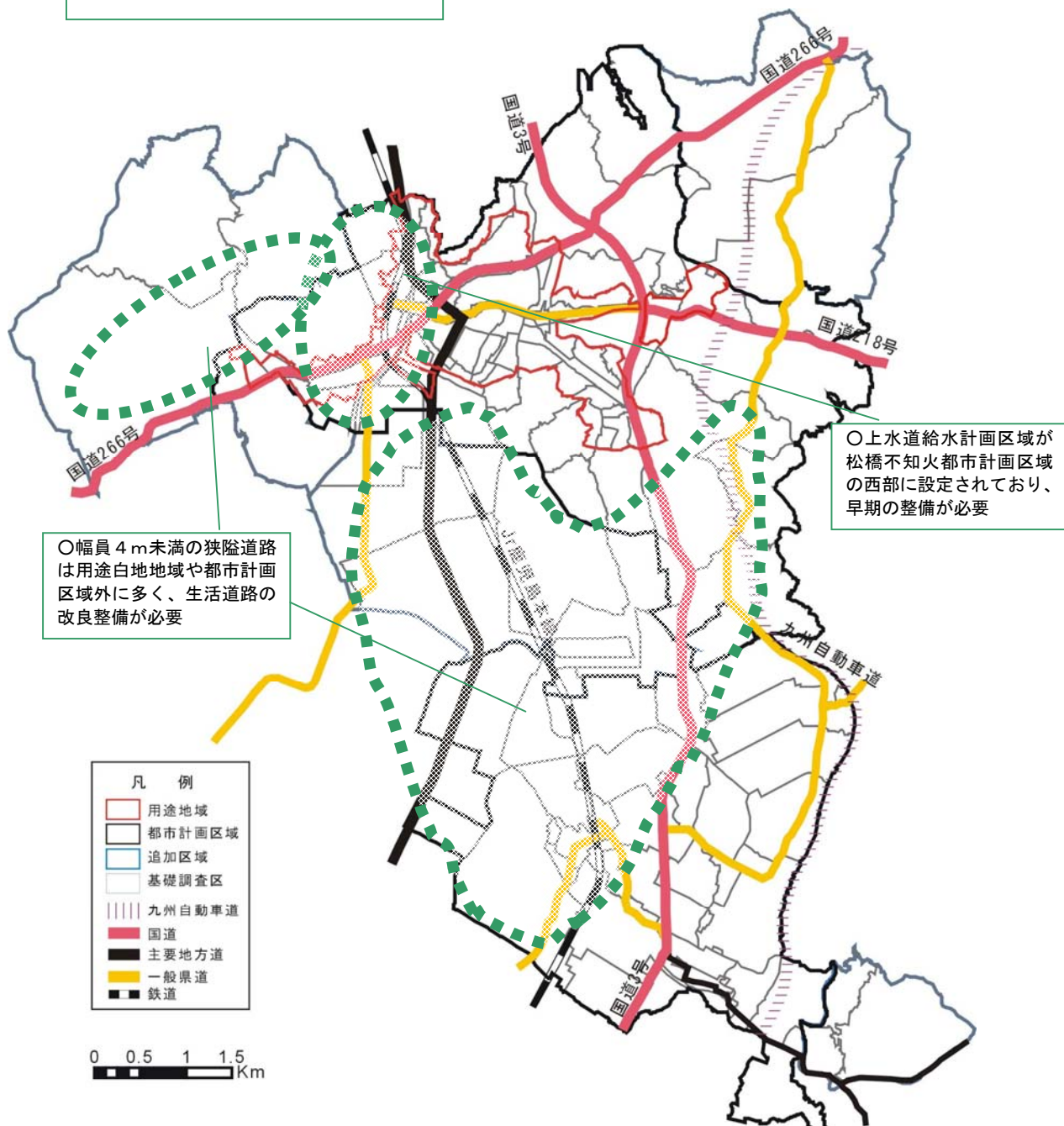


注：新築率＝地区別新築件数（H13～H17 の 5 年間）／地区別建物全棟数

●都市施設の整備に関する課題

○近年のスポーツ・レクリエーション需要増大への対応に必要な街区公園や近隣公園などの身近な公園の配置が遅れている
○災害時における避難地の機能を持つ公園の確保も必要
○既存の公共空地を都市公園として位置づけて整備するなどの検討

○本市の公共下水道は、松橋不知火公共下水道事業及び八代北部流域関連下水道事業によって整備されており、今後は未整備地区の実情にあった整備が必要



3 産業

【産業振興に対応した土地利用の誘導】

穏やかな人口変動で、過激な都市化も生じていない本市は豊かな自然環境を有しています。その反面、農業・漁業の長期低迷に伴う経済活動の停滞、産業構造の硬直化などの問題を抱えています。

本市の農業を取り巻く環境は、離農・兼業化、従事者の高齢化及び後継者の不足等、全国的な傾向と同様に年々厳しさを増しています。そのため、土地利用型農業を中心とした営農組合の組織化、担い手農家の育成・確保ならびに耕作放棄地の解消を図る必要があります。

また、林業を取り巻く環境は依然厳しい状況にあることから、担い手・後継者の確保・育成をはじめ、魅力ある職業として林業を選択できるよう労働条件の整備や所得の確保など、経営の安定化を図る必要があります。

市西側に広がる不知火海は、重要な漁場であるばかりでなく、産卵、幼稚魚の生育など水産生物の増殖の場としての機能を有しており、「つくり育てる漁業」の振興を図る必要があります。

商業についてはモータリゼーションの発達とともに郊外大型店や近郊商業圏への消費者流出が増加しています。このため、市内の商業機能は空洞化が進行して商店街のにぎわいが喪失されつつあります。多様化する消費者ニーズに対応し、都市計画とも連動させながら魅力ある商業環境づくりを進めていく必要があります。

工業は多くが零細な工場であり、価格競争の激化、国際化など地場産業を取り巻く環境の変化への対応が立ち後れています。そのため新製品・新技術の開発などにより、自立型中小企業等の育成と地場産業の経営革新などが必要です。

また、雇用効果の高い企業の誘致やベンチャー企業の新規創業の支援などによる就業機会・雇用拡大などが大きな課題となっています。

【商業・観光ニーズに対応した魅力ある都市空間の形成】

これからのまちづくりにおいて、交流人口の拡大は地域の活性化や産業の振興に影響を与える大きな要素になります。観光ルートの開発、学習・体験型の観光の推進のためにも、観光地へのアクセス道路や観光標識の整備など、さまざまな観光ニーズに対応した魅力ある都市空間の形成が求められています。

車社会の発達により、郊外型大型店舗や近郊商業圏への消費者流出が増加しています。このため、本市においても商業機能の空洞化が進行し「まちの顔」としての商店街のにぎわいを失いつつあります。こうした状況に対応するためには、商店個々の近代化やサービス向上の促進はもとより、多様化する消費者ニーズに対応し都市計画とも連動させた魅力ある商業環境づくりを進めていく必要があります。

産業振興における都市計画の課題

◎産業振興に対応した土地利用の誘導

◎商業・観光ニーズに対応した魅力ある都市空間の形成

4 市民参画等

【住民の主体的参加によるまちづくり活動の実践】

これからのまちづくりのポイントとしては、住民自らの主体的なまちづくりへの参加・協働意識が欠かせません。

この点に関し、住民の果たすべき役割として「地区、地域への関心を持つこと」が特に大切で、住民意識を高めることが重要です。また、この意識が実践されるよう、地域別のまちづくり懇談会の開催等による機会・仕組みを具体化していく必要があります。

【環境問題に対応した都市づくり】

環境問題に対する住民意識は年々高まってきており、先人から受け継がれてきた豊かな自然環境を守るとともに、水質汚濁等の公害対策、廃棄物やゴミの抑制・リサイクル、環境に配慮した都市開発等、環境への負担の少ない都市づくりが求められています。

このためには、無秩序な土地利用を抑制するとともに、環境に関する条例の具体化や環境ボランティアへの取組み等のソフト施策を推進することが必要になります。

その他の留意点

◎住民の主体的参加によるまちづくり活動の実践

◎環境問題に対応した都市づくり



松橋町ゴミの分別リサイクル



松橋町花植活動

主要課題を、土地利用上の視点から区分して以下に整理します。

■ 主要課題の整理

都市構造	業務商業機能	市役所周辺地区に業務核が形成されつつあるが、都市核が未成熟であり、道路等の基盤整備の遅れから拠点地区の機能を十分に発揮できていない。 中心市街地の整備を積極的に推進し、人を引きつける都市空間、人に優しいまちなみの形成を目指した中心市街地形成を図り再整備を進める必要がある。
	交通機能	広域幹線道路である国県道は、通過交通と地区内利用交通との輻輳で交通渋滞等の問題を抱えている。市内の連絡性を高める東西方向の道路整備を推進し、道路ネットワークの形成や、生活道路の改良を進める必要がある。
	都市計画区域	都市計画法に定められた「一体の都市として総合的に整備、開発及び保全」を図るべき区域として、松橋不知火都市計画区域と小川都市計画区域の2つの都市計画区域の一体化を計る必要があるため、土地利用動向や各種事業動向も勘案しつつ、都市計画区域の見直しを早急に行います。
土地利用	計画的土地利用	定住化の促進や住宅需要への対応と中心市街地の計画的整備が求められている。 そのために、市域で進展している宅地化及び都市化に対して、都市構造の再検討と土地利用の適正な規制・誘導を図るとともに、用途地域や既成市街地における未利用地の解消を図り、秩序ある土地利用形成を進める必要がある。
	土地利用の整序	良好な市街地環境と景観の形成を誘導するため、地域特性や土地利用の動向を踏まえた、適正な建築規制を検討する必要がある。 また、用途白地地域及び都市計画区域外のミニ開発等に対して土地利用の適正な規制・誘導を図るとともに、国道沿線地区においては周辺の景観に配慮した施設の誘導を図ることが必要である。
	住宅用地の供給	住宅地取得要望の高まりに対しては、優良住宅地の供給のため、民間開発の適正な誘導・規制を行い、計画的な整備を進める必要がある。
都市施設	道路	生活道路は、全般的に狭隘道路が多く安全面での問題を抱えており、改善を進める必要がある。 また、公共交通機関は交通弱者に不可欠な交通手段であることから、高齢化の進展などに対する対応策として、サービスや路線網の充実に努め利用促進を図る必要がある。
	公園・緑地	公園整備が不十分であり、偏った配置になっていることから、都市公園候補地としての可能性が高い公共用地を活用した整備を検討するとともに緑道等によるネットワーク化を図る必要がある。
	河川	浸水等の水害防止のため、河川改修の整備を進めるとともに、河川の持つ親水空間の活用を図るために親水護岸等による整備を進める必要がある。
	下水道	生活排水等による公有水面の水質悪化防止に向けて、これからも下水道計画事業を積極的に推進する必要がある。
	住環境の向上	地区内道路は狭隘なものが多く、防災上の問題を抱えており、また公園等の整備も不十分であり居住環境の悪化の要因となっている。このため道路、公園、下水道などの基盤施設の整備を進める必要がある。
都市景観	都市景観	宇城市固有の自然、歴史、文化を活かして、景観に配慮した市街地空間、居住空間、道路空間等の整備を進める必要がある。
都市防災	都市防災	震災、水害、火災などの災害に対して安心して暮らせる都市づくりを行うことが求められている。特に不知火海岸は地形特性から高潮や津波による災害が懸念されるため、災害の危険性のある地域の重点的な整備により、安全性を高めることが必要である。また、災害時の被害を最小限にとどめるため、耐震化等による密集市街地の防災機能の強化や救援体制を強化するための道路幅員及びオープンスペースの確保を図る必要がある。



不知火町紫尾山からの展望



文化プラザ



市の玄関松橋駅

